

革新・碧南の会ニュース

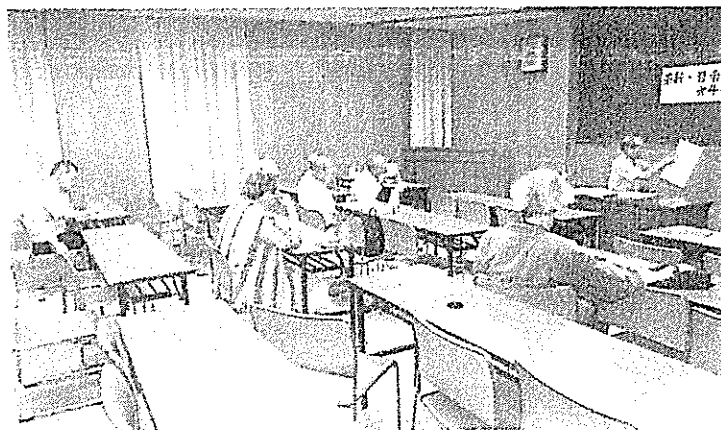
第20号 2012年9月20日 発行・〒447-0818碧南市若宮町4-10 (0566)41-7775

「革新・碧南の会」 第4回総会と記念講演 開かれる

9月8日、革新・碧南の会の第4回総会が開かれました。

この1年の活動報告では、「さよなら原発in愛知」など脱原発をめざす共同への参加。震災がれき受け入れに反対する市民の取り組みと、ニュースなどを通して問題点を明らかにしてきた会の奮闘。運動をリードしてきた共産党の奮闘などが、また「南京事件はなかった」と発言した河村名古屋市長に抗議してきたことが紹介されました。

方針では、ひきつづき大震災への復旧復興に協力しつつ、放射能汚染を拡大させないための行政への働きかけや学習会の開催、などが確認されました。



記念講演「福島原発災害のその後— 「震災がれきの広域処理」の問題点と課題—

記念講演では名古屋大学名誉教授の柘植新先生が上記の講題で話しました。

先生は、IAEA(国際原子力機関)が1kg当り100ベクレルを超える廃棄物を「低レベル放射性廃棄物」として特別の管理を義務付けているとし、国が240~480を一般廃棄物として焼却処理可能とし、さらに焼却灰などを含め8000以下であれば一般処分場に埋め立ててもよいと規定した点を強く批判しました。

災害廃棄物は拡散させずに発生地域で処理すること。放射性物質を含む震災がれきは、拡散を防止して封じ込めることが大原則。国と東電の負担で国策として選別処理する施設を発生現場の至近距離に設置し、高レベルの焼却灰やがれきは原発敷地内の施設にコンテナに収納して保管すること、と強調しました。

大村知事が断念した碧南でのがれき処理について、将来の原発処理という段階で再度碧南などに受け入れを要請することがあるのでは、今回はその地ならしではなかったか、と語りました。

先生は最後に、ある定期演奏会に出かけて手にしたプログラムに、学生時代に合唱団員として歌った曲でよく見かけた堀口大学の詩を発見。それは1971年のサンケイ新聞元旦号に掲載された『新春 人間に』と題したもので、

分ち合え 譲り合え そして武器を捨てよ 人間よ
君は原子炉に 太陽を飼いならした 君は見た 月の裏側
表側には降り立った 石までも持って帰った
君は科学の手で 神を殺すことが出来た
おかげで君が頼れるのは 君以外にはなくなった
君はいま立っている 二百万年の進化の先端 宇宙の断崖に
君はいま立っている 存亡の岐れ目に
原爆のふところに 滅亡の怖れにわななきながら
信じられない自分自身におそれわななきながら……
人間よ 分ち合え 譲り合え そして武器を捨てよ
いまがその決意の時だ

NASAが募集した「月の石の分析研究」の博士研究員に応募してアメリカ留学した先生は、「慧眼をもって時勢の危険性を当初から見抜いていた堀口大学に、もし留学の是非を相談する機会があったとしたら、彼は何と助言したであろうかと思うと、冷や汗が出る思い」と語って終わりました。(文責・編集部)

会費納入のお願い

新しい年度が始まりました。

会費の納入をお願いします。

年2500円です。同封の振込用紙を御利用下さい。

よろしく願いいたします。

財政難の折、カンパへの御協力にも御理解を

*既に納入いただいた方には御容赦を